

乙 頁

第18号 (通巻第4巻第5号)

1985年1月1日 発行

守山市立埋蔵文化財センター

☎ 0775-85-4397

〒 524-02

守山市服部町2250番地

あけまして おめでとうございます。年末の寒波も年がおしつまるにつれて
しだいにやわらぎ、暖かい新年となりました。我々 発掘調査に携っている者
にとって、このまま春まで暖かい日々が続くことを願っております。しかし寒
さはこれからが本番、比喩おろしにも負けずがんばっていきたいと思います。

さて、当埋蔵文化財センターはこれまで年4回の特別展をはじめとして、体
験学習などを行って埋蔵文化財の御理解を求めてまいりました。そして、今年
開所5周年を迎えるのを契機として、有形・無形文化財など文化財全般につい
ても啓発にとりくみ、多くの方々に接していきたいと思っています。

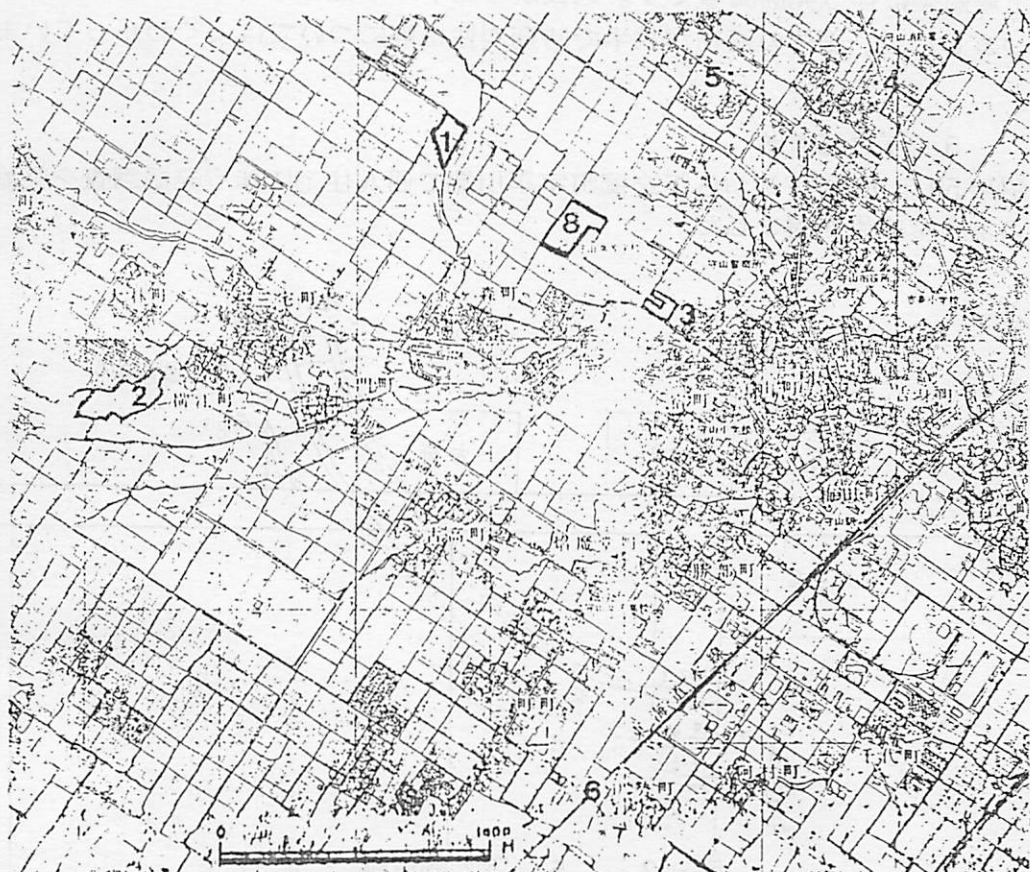


図-1 調査地位置図

——発掘調査だより——

59年11月から12月にかけて、8箇所で調査が行なわれました。図-1の番号にそって順次簡単に説明していきます。

1 中島遺跡……調査開始

文化会館建設に伴う試掘調査により、新たに見つかった遺跡です。約13000㎡の開発計画のうち、7000㎡について1月より本調査を行います。

2 横江遺跡

約200㎡の調査区内より、溝によって区画された建物を検出しました。この区画された溝には坑が打ちこまれており橋と考えられます。黒色土器、土師器、中世陶器が見つかっており、14世紀の遺構。遺物と考えられます。

3 金森東遺跡

5つの調査区のうち2箇所併行して調査が行われましたが、これまで20棟以上の堅穴式住居のほか溝や掘立柱建物がみつかっています。詳しいことは毎月発行の「金森東遺跡調査報」をご覧ください。

4 榑磨田東遺跡

工場新築に伴う発掘調査です。地表から約1mのところまで数個の小ピットを検出しましたが、細片の遺物が大半で時期や性格等についてはよくわかっていません。

5 下之郷遺跡

昭和59年10月下旬から下之郷町字平川端で個人住宅に伴う発掘調査を実施し次のような成果を得ました。

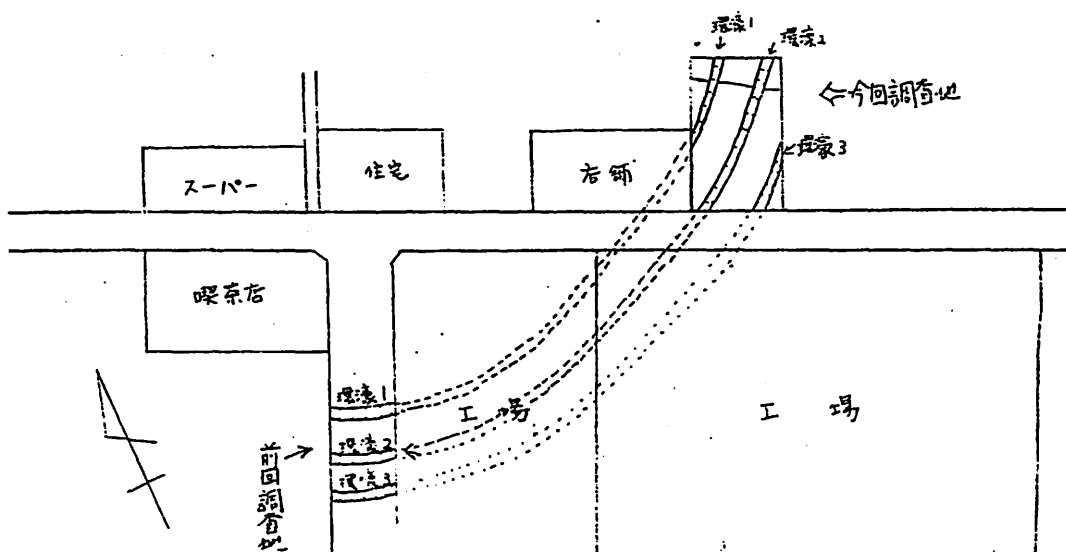


図-2 5 下之郷遺跡

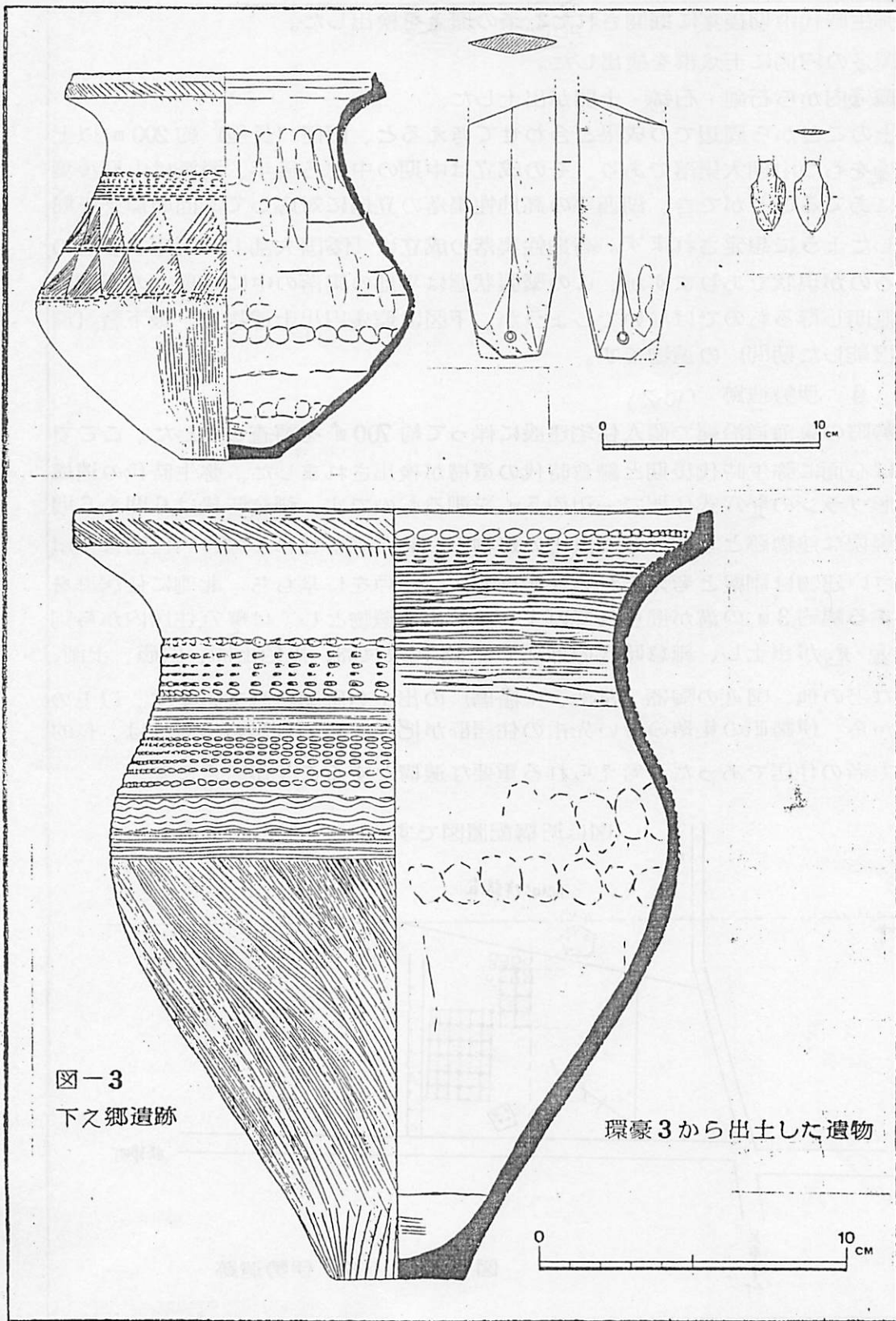


図-3

下之郷遺跡

環豪3から出土した遺物

- 1 弥生時代中期後葉に掘開された2条の環濠を検出した。
- 2 環濠の内側に土坑群を検出した。
- 3 環濠内から石剣・石鏃・土器が出土した。

以上のことから周辺での成果と合わせて考えると、直径（長径）約200m以上の環濠をもつ中期大集落であり、その成立は中期の中ごろ後半、消滅は中期後葉終末にあてることができ、湖西等の高地性集落の立地に対応して3回の環濠を掘り直したように想定されます。高地性集落の成立は「倭国大乱」に関連するものとするのが現状であります、この緊張状態は平地の集落の中にも環濠の掘開により証明し得るものではないでしょうか。下図は環濠内出土遺物で、最下層（環濠が機能した期間）の遺物です。

6 伊勢遺跡 (10頁)

伊勢町の東海道沿線で個人住宅建設に伴って約700㎡を調査しました。ここではほぼ全面に弥生時代後期と鎌倉時代の遺構が検出されました。弥生時代の遺構は方形プランの竪穴式住居で一辺約5mを測るものです。鎌倉時代は6間×6間の大規模な建物跡と4間×3間以上の建物の2棟が確認され、大きい建物は主屋で小さい建物は副屋と考えられる住居群です。井戸を1基もち、北側に住居群を区画する幅約3mの溝が掘られていました。出土遺物としては竪穴住居内から別図の壺・甕が出土し、鎌倉時代の遺物では13代の瓦器、黒色土器、白磁、土師器皿などの他、国産の陶器（常滑、東播磨）の出土も確認されています。以上のことから、伊勢町の集落の近い先祖の住居群が把握でき、しかも、それは、長期的な有力者の住居であったと考えられる重要な遺構とすることができます。

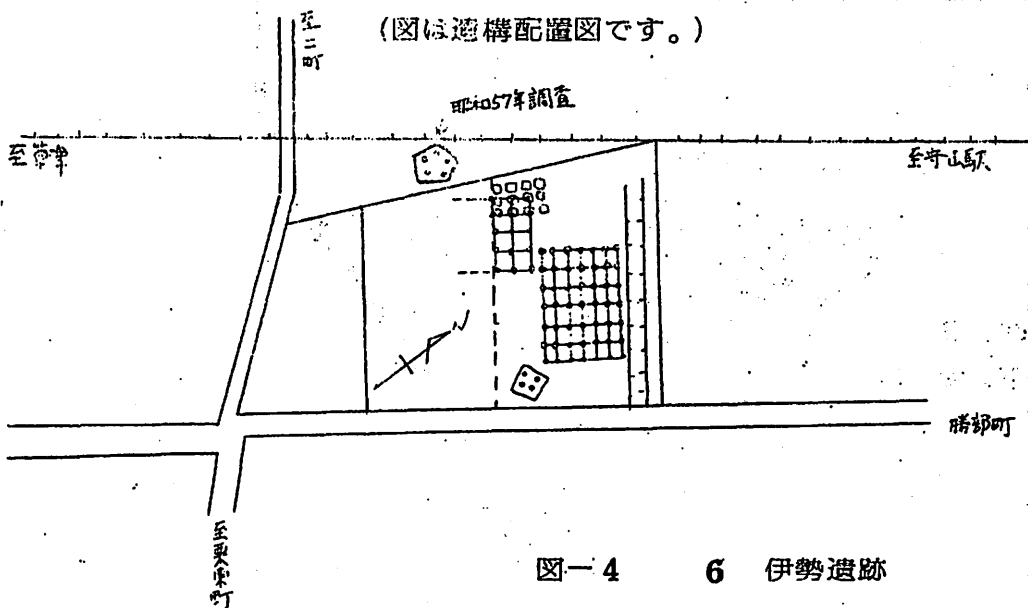


図-4 6 伊勢遺跡

7 伊勢遺跡 (B次)

伊勢町字西浦において、資材置場建設に伴って、約70^mの調査を行ないました。調査の結果は4.5^mの溝と、これと交わる90^{cm}幅の溝を計2条検出しました。この小さな溝からは、弥生時代後期～古墳時代前期にかけての土器が比較的多く出土しました。大溝の方も同時代の土器が出土していますが、小溝ほど多くありません。

また、大溝と小溝が接する附近の大溝側に、杭の一群を検出しました。これは「しがらみ」と呼ばれ、川から水をひく井堰であると考えております。杭は直径5^{cm}程度の太さで、ほぼ直立に打ち込まれ、一部斜めに板材も打たれています。

8 金森東遺跡 調査終了

58年6月より調査を行なっていました金森東遺跡(現在の山柿団地)は、59年11月20日で全て終了致しました。「乙貞」では58年の第12号以来詳しい報告をしておりませんので、ここでまとめてお知らせしたいと思います。

遺構を大別しますと削平された古墳、弥生時代の周溝墓と竪穴住居、古墳時代の土坑墓、古墳、平安時代の掘立柱建物があります。このうち周溝墓と古墳は30基検出遺構では多く、調査区のほぼ全域で見られます。竪穴住居は59年度調査区で9棟ほど検出しましたが、ほとんど柱穴や周壁溝等によくわかりませんでした。しかし調査終了前で検出した竪穴住居(図-6 SH-1)では、床面で多量の土器と炭がみつき、焼失した建物であったと考えられます。

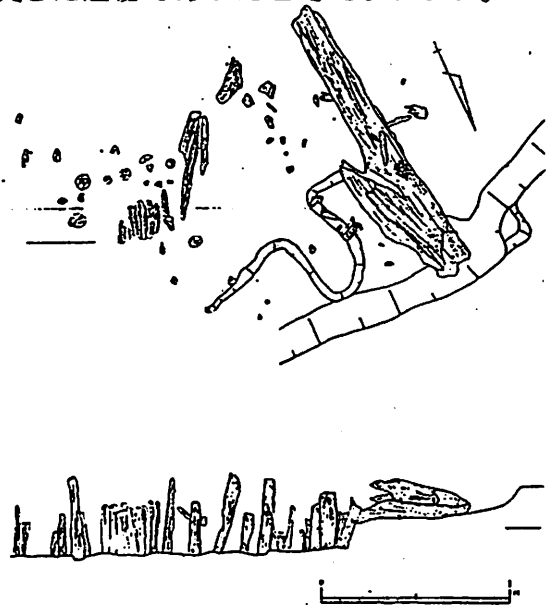
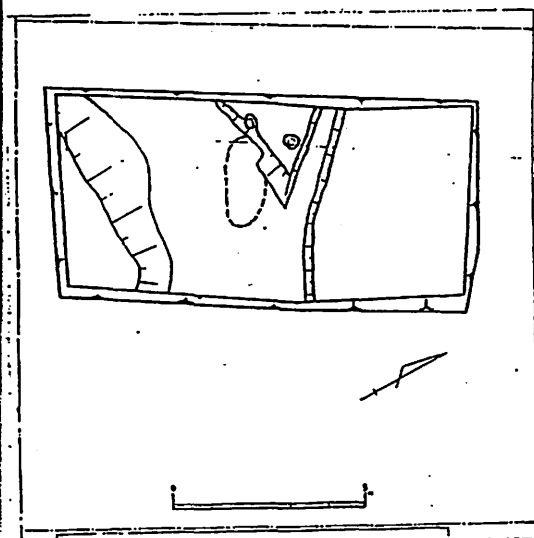


図-5 7 伊勢遺跡

土坑墓群は8基ほど検出し、主軸は南北方向と東西方向に分けることができます。そのうち、ひとつには鉄鎌と須恵器2点が供献され、また他のひとつには須恵器が四隅に供献されていました。4月から整理作業を開始します。

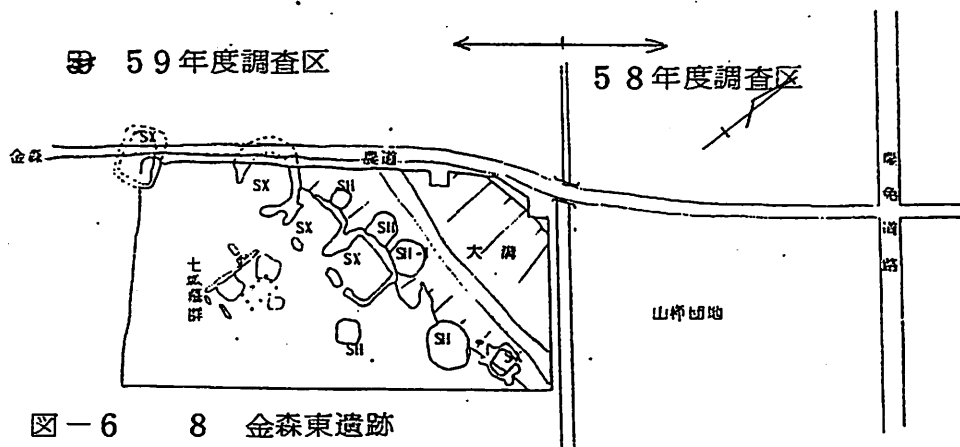


図-6 8 金森東遺跡

※※※ 友の会行事の報告 ※※※

埋文センター友の会では10月に栗東町方面、11月には大津方面の現地学習会を開催しました。

栗東町方面では「安養寺」の庭園、薬師三尊を、荒張の大野神社、春日神社の楼門、表門を見学、その後、六地藏の和中散本舗（大角家）を見学し、帰路、途中で新善光寺へ立ち寄った。埋蔵文化財を通じて、歴史の理解や親睦を深める意味と、有形文化財の学習も、より意義のある内容をもって終了することができたと思います。

11月には、大津市穴太にある現在調査中の穴太廃寺の学習会とした。大津京の探究の中でいろいろ議論がなされた調査を経て、発見されたいきさつをもつ寺院跡で、金堂、講堂、塔跡が整然と残り、全国的にも数少ない主要な和藍配置をとったすばらしい内容を調査員の中川さんに説明して頂いた。現地が後世に伝えられんことを期して、センター友の会の行事報告とします。

○○○○ 59年度第3回特別展終了! ○○○○

「身近な遺跡—古代における人々の交流」をテーマにした秋季特別展を文化財強調月間の11月に開催しました。期間中、県内・県外を問わず多くの方々の見学がありました。また、昨年につづき弥生式土器づくりも行ないましたが今年は焼成の段階で上手に焼けることができました。次回の特別展は3月に予定しております。

後記 昭和の年も還暦を迎えましたが、地に眠る遺産はこれを何度もくり返して、現在私達に当時の様子を伝えてくれます。大切にしましょう。M.H